

情報公開文書

研究の名称	高齢者における起立・着座動作中の筋シナジーと、腰痛・プレフレイルとの関連性についての検証
研究代表機関	富山大学
研究責任者 （所属・職名および氏名）	リハビリテーション科 教授 服部憲明
①試料・情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	<p>この研究は富山大学臨床・疫学研究等に関する倫理審査委員会の承認および研究機関の長の許可を受けて実施しています。</p> <p>【研究の目的・方法】</p> <p>(1) 研究の目的</p> <p>日本の成人人口のうち、腰痛に悩む人は1,180万人と推定されています。その中でも慢性腰痛が腰痛全体の76.9%と大半を占め、60歳以上の年代で有病割合が高いという特徴もみられています。一般的に、慢性腰痛の治療は、筋力や運動能力を改善させるリハビリテーションが中心となりますが、中には腰痛の原因とされる筋力や動作を改善しても腰痛が改善しない方もおられます。</p> <p>また、腰痛とともに社会的問題になっているものに、「心身の脆弱さ」を意味するフレイルがあります。フレイルの状態では、心身の活動力が低下して転倒や寝たきり等の原因となり、要介護状態になるリスクが高まります。その予防には、フレイルの予備群であるプレフレイルの状態をできるだけ早く発見し、リハビリテーションを実施する必要があります。その治療対象となる筋群は慢性腰痛の原因となる筋群と類似しています。一方で、慢性腰痛・プレフレイルの存在による筋シナジーの変化や動作の質の客観的な評価方法は確立されていません。本研究では、慢性腰痛・プレフレイルにおける筋シナジーと動作の質に関して、起立動作に着目し、様々な評価を行うことで、病態にあったリハビリテーション治療を可能にすることを目指します。</p> <p>(2) 研究の方法</p> <p>本研究は、健常対照者および慢性腰痛またはプレフレイルである富山市在住の65歳以上80歳以下の方を対象としています。症状の程度や握力、歩く速さ、ふくらはぎの太さ、日常生活についての評価を行った上で、反復起立動作の表面筋電位評価、3次元動作解析を行います。反復起立動作課題については、両上肢を胸の前で組んだ状態での起立動作を任意の速度で10回繰り返します。但し、リハビリテーション治療において一般的に用いられている基準に基づき設定した中止基準に当てはまる場合は測定を中止します。得られた検査データについては、他の情報と照合しない限り個人を識別できないよう加工した状態で、専門的な解析のため共同研究機関である東京大学に提供します。</p> <p>なお、健常者については、我々の先行研究（R2023231：「反復起立動作による疲労に伴う筋シナジーの変化についての検証」）で該当する研究対象者のデータも活用する予定です。</p> <p>【研究期間】</p> <p>実施許可日 ～ 2028年9月30日</p> <p>【研究対象者】</p> <p>選択基準：慢性腰痛（3ヶ月以上継続する腰痛）またはプレフレイル（筋肉などが痩せて弱くなっている）である方と、そのどちらもでもない健常者でいずれも地域在住</p>

	<p>の65歳以上80歳以下の方を対象とします。なお、健常者については、我々の先行研究（R2023231：「反復起立動作による疲労に伴う筋シナジーの変化についての検証」）で該当する研究対象者のデータも活用する予定です。</p> <p>除外基準：直近4週間以内に急性腰痛を発症した方や腰の手術歴がある方、下肢に電気が走るような痛みを伴う腰痛がある方、見当識障害や精神機能障害など認知機能の低下がある方、立ち上がり動作を自立して行うことができない方もしくは転倒リスクがあると判断された方は参加できません。その他、健康状態などにより、研究責任者により研究実施が不相当と判断された方も参加できません。</p> <p>【研究資金、利益相反の状況】</p> <p>この研究の資金源は、富山大学附属病院リハビリテーション科の公的研究費です。この研究は、研究責任者および研究分担者（以下、「研究担当者」という。）が自主的に実施するものであり、他の企業や組織は、この研究に関与しません。また、この研究の対象となる関連企業等は存在しないため申告すべき利益相反関係はありません。</p> <p>【個人情報の取扱い】</p> <p>この研究で保有する個人情報は、個人情報に関する法律、その他の個人情報の取り扱いに関する適用規制および学内規程に従い適切に取り扱います。</p> <p>研究で取得するあなたの情報は、氏名、カルテ番号等個人識別が可能な項目が削除され、個人とは無関係な識別番号が付与されることで他の情報と照合しなければ個人を識別できないように加工されます。加工された情報等は研究者のみがアクセス出来る場所に安全に保管された上で研究に用いられます。共同研究機関へは、個人情報を削除し加工したデータのみを提供します。</p> <p>【研究結果の公表の方法】</p> <p>研究終了後、研究成果は学会または学術雑誌において発表される予定です。研究成果の発表等には、臨床研究の対象者の方個人を特定することが可能な情報は一切含まれません。</p> <p>【試料・情報の他機関への提供有無】</p> <p>有</p> <p>【外国にある者への提供について】</p> <p>「該当なし」</p>
②利用又は提供する試料・情報の項目	<p>【試料・情報の項目】</p> <p>本研究では取得される試料はありません。取得する情報は、症状の程度や握力、歩く速さ、ふくらはぎの太さ、日常生活についての評価を行った上で、反復起立動作の表面筋電位評価、3次元動作解析を行います。</p>
③利用又は提供を開始する予定日	<p>【利用又は提供を開始する予定日】</p> <p>2026年1月13日</p>
④試料・情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名	富山大学長 齋藤 滋
⑤提供する試料・情報の取得の方法	得られた検査データについては、他の情報と照合しない限り個人を識別できないよう加工した状態で、専門的な解析のため共同研究機関である東京大学に提供します。
⑥利用する者の範囲	別紙「共同研究機関一覧」のとおり

⑦試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称	富山大学長 東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授 安琪
⑧研究対象者等の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する旨	研究対象者に関する試料・情報を当該研究に用いること（他の研究期間への提供も含む。）に対して、拒否をご希望される場合や研究資料（研究計画書及び研究の方法に関する資料）を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲で入手・閲覧を希望される場合は、以下の窓口へご連絡ください。 電話番号：076-434-2315（代表） FAX：076-434-1463（代表） E-mail：rehab@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名：富山大学附属病院リハビリテーション部 理学療法士 丹羽翔太